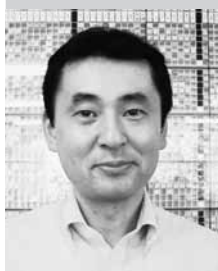


オープンキャンパスを実施して

キャリア研修旅行（首都圏中心の企業訪問）を実施して



新潟県立高田高等学校
2学年進路指導部

羽豆 一秀

高田高等学校2学年「キャリア研修旅行」（企業訪問）を実施するにあたり、校友会東京支部長佐久間昇二様をはじめといたしまして、校友各位の絶大な御支援を賜り、ここにキャリア研修旅行（企業訪問）の全日程を終了することができましたことを心より感謝申し上げます。

今回のキャリア研修旅行で大学訪問だけでなく企業訪問を計画した理由は、多くの生徒が将来の職業に対して希望や目標が曖昧であるばかりか、希望する職種に偏りがみられたからです。というのも、昨今の生徒は地域の大人との関係性が希薄化し、将来、目標にできる職業人が一部の職種に限られてしまい、自分の適性にあった職種を見つけることができないで悩んでいるのです。

この企業訪問をとおして、職種の多様性や職業についての将来像を描くことができ、また、企業には多様なキャリアを持っている人が、それぞれ志を抱きながら働いてい

ることに気づかせ、そして、生徒ひとり一人が勤労観・職業観を醸成することを期待しました。

次に企業訪問の内容についてですが、進路希望別に44のグループに分かれて、企業研究を進めるとともに、生徒自身が「10年後の企業で働いている自分」をイメージすることができるようなプログラムを計画したいと考えました。折しも日立製作所の皆様から大きなヒントを頂戴しまして、以下のような内容で各グループに企画書の作成を指示し、訪問当日にプレゼンテーションを行うミッションを課したのです。

「これからの未来を想定して、君たちが訪問する企業に将来実施してもらいたいことについて企画書を作成し、提案せよ！」

- 《1》近未来の姿を論議し、未来の課題を洗い出す。
- 《2》上記で洗い出した未来の課題に対して、企業に何を解決してほしいか、企画を練る。絞り込んだテーマにそれぞれの訪問先の技術・製品・取り組み、など事業研究で調べたことをもとに企画書を作成する。
- 《3》企画書の提出とプレゼンテーション。

生徒たちは前日まで企画書の原稿づくりに奮闘し、また、大きなプレッシャーにより企業訪問に抵抗感を示す生徒もいました。しかし、当日は企業の方々の笑顔溢れる応対が生徒の緊張をほぐし、プレゼンテーシ

ョンもほぼ納得のいくものとなったようです。また、何よりも企業の方々からの叱咤激励が生徒にとって貴重なアドバイスとなり、多くの生徒がとても感動しておりました。我々教職員も大変満足のいく企業訪問ができたと考えております。

生徒たちがどんな方向に進むのか、どうやって生きていくのか、それは保護者だけ

でなく我々教師にとっても最大の関心事です。今後の大学や学部の選択は生徒自身の人生を大きく左右させます。この企業訪問において、未だ経験したことのない世界の一端を知ることで生徒たちの探求心に火を付け、これを契機に生徒自らが進路選択を見つめ直す機会にしてほしいと思っております。

《自分》をつかめ

高田高校 2年

上野 実咲



私は、先日のキャリア研修旅行において、日立製作所に伺った。庄山相談役はじめ、OBの方々にお迎えいただき、様々なお話を伺いながら、高田高校で学んで、社会に、世界に飛び立った人間のスケールを感じた。



日立製作所にて。左端は庄山顧問（高6回）

はじめに、私たちが「日立にやってもらいたいこと」として練ってきたものをプレ

ゼンした。世界の日立に、新潟の一高校生のアイデアが通用するのか、すごく不安であった。しかし、二ヶ月以上の時間をかけ、持ち得る限りの広い視点で考えた成果があった。例えば、実際に既に日立でやっていること、日立の専門外であることもプレゼンには含まれていたが、関連した政府の政策や子会社などについて深く調べていたので、お褒めの言葉もいただくことが出来たのである。また、内容について、庄山相談役直々にいただいたいくつかのご意見に関しては、さらに考えを深め、のちにしっかりと活かしていきたい。



プレゼンする上野さん

続いて、研究・開発されているシステム

のショールームを見せていただいた。最初は、みな引け腰であったが、次第に質問も増えた。なにより、プレゼンのこともあり企業について綿密に調べてあったので、どこの部署、どこの関連会社で、研究・開発されているかを予想しながら、また実生活で、特に私たち高校生の目線で、どのように活かせるかを考えながら、能動的な見学をすることが出来た。

全体的に考えて、移動中などにも積極的に質問等をすれば、もっと多くを得られたに違いない。しかし、学んだものはたくさんある。特に強く感じたのは、物事は十分に知り、考えなければ、そこに自分を見出せない、ということである。社会の問題だけでなく、進路や学問についても、まず知ることからはじめ、考えを積み重ねて、どんどん自分のものにしていきたい。

企業訪問を終えて

高田高校2年

佐藤 紘子



私は、八王子にある「オリンパス株式会社 技術開発センター」を訪問した。

私は将来、医療方面に進みたいと考えている。中でも興味があるのは、医療技術の研究である。今回の訪問を通して、様々なことを学んだ。

まず、研究を地道にコツコツと重ねることによって、すばらしい結果を得ることができるということ。今では世界で70%のシェアを誇る内視鏡の、長年にわたる開発の歴史を見て感じたことだ。私は、コツコツと物事に取り組むのが苦手なので、日頃の勉強からコツコツ行うトレーニングをしようと思った。

次に、様々なことに目を向けることが大



オリンパスで体験する佐藤さん

切だということ。興味が無い、関係がなければからといって、必要最低限のことしか行わなかったら、固定された視点でしか物事を見ることができない。良いアイデアを思いつくためにも、様々なことに興味をもって取り組むことが重要なのだと感じた。

今回の訪問で、私が興味をもつ「研究職」をより身近に感じることができた。貴重な体験をさせてくださった方々に感謝したい。

高校生の企業訪問

—— 校友会東京支部がお手伝い

母校の高校2年生(310余名)が、実社会を体験し未来を展望するために企画された東京周辺での企業訪問の旅行は、7月29日、30日に実施されました。

校友会東京支部としても、このような後輩学生の活動は初めてでもあり、学校側の要請に応え全面的にバックアップすることとし、校友のいる企業や佐久間支部長の個人的なルートによって、44の企業、研究機関が生徒らの訪問を受け入れてくださいました。

さすが母校思いの高田高校の先輩校友諸氏、自ら後輩高生たちに付き添い、会社を紹介したりして協力したこともあって、8人ほどずつのグループに分かれて、それぞれ希望の企業などの訪問を果たしました。佐久間支部長も、宿舎の代々木青少年センターで、生徒らに「すばらしい先輩がいることを誇りに思ってください」と激

励されました。

生徒らは、初めて日本の首都の企業を訪問し、その活発な営みを体験して、得るところ大なるものがあったようです。学校側からも、生徒が「最先端の企業活動を見て感激した」「勉強の動機付けができた」などの感想を寄せているとの報告がありました。ご協力をいただいた校友の皆さん、ありがとうございました。

なお、私たち校友会東京支部が協力しているこの「企業訪問体験」と「未来展望セミナー」などの企画が県の「オンリーワン・スクール企画事業」として新潟県教育委員会に認められ、これら活動に今後3年間県の予算がついたとのうれしい便りが、草間校長から佐久間支部長に届いています。

幹事長 上野邦治(高15回)